



# 城南中だより

第 3 号  
令和 8 年 5 月 2 9 日 発行

学校教育目標 希望と愛をはぐくむ美と活力の学校

～常に『思考』を大切にして、『創造』と『進化』を続ける魅力ある学校～

〒339-0034 さいたま市岩槻区笹久保577 TEL 048-798-0007 さわやか相談室直通 048-797-0514

## 「いじめ」について 大人たちへのお願い

校長 吉原 誠 士

**集団生活には必ずルールが伴います。**中学校、上級学校、社会人として所属する会社、チームなど、思い起こしてみるとどこでも規則が定められているのがわかります。きまりを破られることが続くと、その集団の維持、運営が困難に陥ります。大人の社会では約束が守れなければその場から排除されたり、ペナルティーが課されたりします。ところが中学校では、様々な理由から強い指導をしたり罰を与えたりすることはあまり見られなくなっています。しかし違反者を放置するわけにもいきませんから指導を工夫しています。声を荒げず、静かに話を説くのです。私は「**まじめにやっている人がかわいそうではないか**」との一言で終えるようにし、理解を得てきました。

**「いじめ禁止」は守らなければいけないルールの一つ**です。昔も今もいじめがダメなのは変わりませんが、私には子どもの頃、いじめを見ても何もできなかった経験があります。いじめが原因で学校を休むようになり、留年した同級生もいました。また、平日に会社で働く父の姿を眺めていた記憶があり、小学校に行きたくなかった理由は周囲とのトラブルだったかと思います。現に酷い目に遭っている子どもにとっては「強くなれ」「いじめを跳ね返せ」などは精神論に過ぎません。それができればいじめの被害者にはなりません。これまでの経験から考えると、**自分が置かれている状態、状況を聞いてもらえる人の存在が未然防止や問題解決、事態悪化の回避への鍵**となります。

令和6年度の「さいたま市立中学校でのいじめ発見のきっかけ」を見ると、「学校の教職員等が発見」が20.4%、「学校の教職員以外からの情報により発見」が79.6%です。いじめは悪いことだとわかっているのに、教職員の目の届かないところで行おうとします。本人が不名誉なことと考え黙っていること、加害者が口封じすることも多く、このことがいじめを直接発見するよりも、本人が周囲にSOSを発して発覚するケースを多くしています。やはり、**助けてくれる人だと信用される大人（教職員・保護者、その他）が傍にすることが大切**なのです。また、**アンケートや生活記録ノートも訴え出るために大事なツール**です。その場合は、私たちも守秘に努めます。

「子どものケンカに親が口出すな」は遠い時代の話で、いまは通用しません。「いじめられる側にも問題がある」「仲間に入れてただ遊んでいただけ」というのは使い古された言い訳です。報道からは、これまで以上に、**相手がどのような人かをよく見極めたり、距離感を保ってうまくやっていったりすることが強く求められるようになったように感じられます。**冒頭に述べた所属集団できまりを守ることも、おかしい事態を招かないためのスキルと言えるかもしれません。本校では、**大人の皆さんに呼びかけます。子どもたちの声に耳を傾けてください、学校にもお知らせください。**そして子どもたちには、他人の話をじっくり聞くことができる素敵な大人に成長することを期待します。